



公益社団法人 愛媛県建築士会

<http://www.ehime-shikai.com>

和紙制作を通して時代を学ぶ
私のまちづくり①
葛原郁子さんを偲んで



1	「公益社団法人愛媛県建築士会設立」平成25年度の初めにあたって	会 長 本田 壽……………①
2	寄稿	
	和紙制作を通して時代を学ぶ 私のまちづくり① 菊池清治邸について	り く う 佐藤友佳理……………② ヘリティジ・マネージャー 岡崎 直司……………④
3	追悼	
	葛原郁子さんを偲んで 在りし日の同級生を偲んで 葛原郁子さんへ	女性委員長 田中 明美……………⑥ 女性委員 小原 文子……………⑥ 初代女性委員長 二宮 初子……………⑦
4	支部報告	
	平成25年度 愛媛県建築士会松山支部理事会通常総会報告	支 部 長 赤根 良忠……………⑨
5	委員会報告	
	親睦ゴルフコンペ報告 新しいホームページのご紹介	常 務 理 事 赤根 良忠……………⑩ 情報・広報副委員長 小野田公典……………⑪
6	けんちくの輪	
	建築士会と私 建築技術「近代化」の功罪	四国中央支部 石村 卓也……………⑫ 今 治 支 部 白石 耕平……………⑬
7	お知らせ	
	平成25年度会費の口座振替のお知らせ 編集後記	事 務 局……………⑭ 情報・広報委員……………⑮



【表紙の写真】

題 : 花火
撮影者: 井上 裕一

表紙の写真について

大洲肱川河川敷きの花火です。
花火が画面全体に広がりを出して
おり堤防の上の露天と客の影が夏
の花火を醸し出しています。
前に打ち上げられた花火の煙が
残っていたのが残念でした。

【表紙の募集について】

本誌の表紙の写真を随時募集しています。
愛媛の建築、又は建築と風土、町並み、設計作品
などの写真を下記の要領で事務局にお届け下さい。
審査の上、採用されれば掲載させていただきます。
また、サイズの調整やトリミングをさせて頂く事
をご了承ください。

期 間: 随時
様 式: デジカメデータ (JPEG)
サイズ他: 自由
応募方法: 持参かメール添付
支部名、氏名、題名、コメント
※応募作品の著作権は募集者に移る条件となります。

「公益社団法人愛媛県建築士会設立」 平成 25 年度の初めに当たって

会長 本田 壽



会長 本田 壽

本会の平成 25 年度通常総会は、公益社団法人愛媛県建築士会最初の総会として、会員各位多数の出席をいただき盛大に開催できました事に対しまして、心より感謝申し上げます。

又、式典には、愛媛県土木部管理局長稲田洋一郎様をはじめ各界から多数のご来賓をお迎えして、厳粛に挙行できました事に対し深くお礼申し上げます。尚、式典において、表彰状及び感謝状を受賞されました皆様方にお慶びを申し上げます。

平成 24 年度通常総会において、公益社団法人認定申請に必要な、新定款及び規定そして愛媛県への移行認定申請を提出する事を議決していただき、その後、「公益法人制度改革推進委員会」、「常任理事会」、「理事会で事前申請による補正事項の協議を行い、平成 24 年 11 月 30 日に愛媛県へ公益社団法人認定申請を提出しました。そして、愛媛県公益法人認定委員会の審査を受けて、平成 25 年 3 月 19 日付けで愛媛県知事より公益社団法人として認定され、法務局へ法人登記の申請を行い、平成 25 年 4 月 1 日を設立日として公益社団法人愛媛県建築士会が設立されました。これからは、会員皆様と心を新たにして、公益社団法人愛媛県建築士会の発展に取り組んでまいりますので、会員皆様のご協力、ご支援よろしくお願ひ申し上げます。

さて平成 24 年度は、役員が交替したことで本会運営の心配がりましたが、役員はじめ会員各位のご協力により、諸事業を計画に基づき着実に実施する事ができました。特に公益社団法人認定申請に関しては、会員各

位、事務局職員に多大なご努力をしていただき、誠にありがとうございました。又、県当局をはじめ関係諸機関のご指導、ご支援を賜りました事に深く感謝を申し上げます。更に、建築士会全国大会への参加、青年・女性建築の集い中四国ブロック大会の参加など対外的な活動にも積極的に取り組んでいる事に敬意を表します。

平成 25 年度は、公益社団法人愛媛県建築士会として新定款の目的『本会は、建築士に対する建築技術に関する研修並びに会員の指導を行い、建築の品位の保持及び向上並びにその業務の進歩改善に資するとともに、県民の生命及び財産を建築物による災害から守るとともに建築に係る県民の利益の擁護及び増進並びに建築文化の振興を図るための事業を実施することにより、社会に貢献することを目的とする』をしっかりとらえて、基本方針の基、

4 項目の重点施策

1. 公益社団法人への移行に伴う地域貢献活動を積極的に推進する。
2. 会員増強運動の推進。
3. 建築士の資質の維持・向上及び業務の進歩改善の推進。
4. 継続能力開発（CPD）制度及び専攻建築士制度の推進を図る。

を掲げて、事業計画及び収支予算を組み、理事会決議をして総会への報告を致しました。今後は、この事業計画の実施に向けて、役員一同努力を致したいと思いますので会員各位のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。又、今年の建築士会全国大会は、10 月 19 日(土)島根県松江市にて開催されますので、会員の皆様方も多数の参加をよろしくお願い致します。

終わりに、会員皆様方の益々のご発展とご健勝をご祈念致しまして、公益社団法人愛媛県建築士会設立・平成 25 年度総会報告とさせていただきます。

和紙制作を通して時代を学ぶ

寄稿

2

りくう 佐藤 友佳理

西予市宇和町明間、観音水の麓。もともとは祖父母が住んでいた築70年の日本家屋にて、大型和紙・和紙インテリアのデザイン・制作をしております。

内子町五十崎にて、株式会社「りくう」として2010年より2年余り和紙事業を展開し、昨年、夏、独立。西予市に引っ越し工房を持ちました。

風光明媚なこの場所には四季折々の美しい自然を見る事ができ、ゆったりとした時の流れの中にと、これまで過ごしてきた、東京、ロンドンでも騒がしく忙しい時間が同じように流れていることが、にわかに信じられません。

高校を卒業し、ファッションモデルになるという「モデル」を掲げた私は、勢い勇み東京へ。しかし、現実には厳しいもので、事務所に課せられたダイエットにより、体調を崩す事に。その後、ロンドンへの留学を決意、語学を習得しようとイギリスへ向かいます。

モデルになりたい!という執着を手放したときこそ自然にチャンスが巡ってくるのでしょうか、ロンドンでモデル事務所に所属、化粧品のキャンペーンや雑誌のお仕事、日本の日産のCMのスペインロケなど、次々に夢見ていたモデルの仕事が取れはじめました。その後、やはり自国でモデルとして再挑戦してみたい!と帰国。しかし、日本のマーケットには外国人モデルの需要が多く、再度挫折します。その挫折はとても私を苦しめたのですが、そこにもヒントがありました。

わたしたちの住む日本には、文化や工芸をとっても、

素晴らしい質・技術を誇るものが多くあります。

しかし、外国人のモデルさんたちが宣伝すればスタイリッシュな商品に見えるように、私達の目には、異国の生活様式・文化はとても魅力的に映ります、自国の見慣れた美しいものよりも。そこに大きな矛盾を感じるようになった私は自国のことについて学びたいと思うようになりました。

私は東北の大震災より以前に、愛媛に帰ってきて和紙の仕事に取り組み始めたのですが、震災以降、東京のメディアからの取材を受けることが多くなるなど、確実に人々の意識は自国のもの、身近な大切なものを見直す流れになっていることを強く感じます。

大量生産・大量消費の時代はゆっくりと減速をはじめ、消費者は、「生産地・材料・作り手・生産工程、などにも興味を持ち、多少高価であろうが自分の本当に気に入った一品を手に入れ、長く大切に使う」という、限りある資源を用いてつくられる物に対して本来あるべき扱いをする流れになっているように思います。

私の和紙は、原料の楮をカットして柔らかくする工程からすべて手作業です。機械でないので、一日にそんなにたくさんはつくれません。

「本当に欲しい」とおっしゃってくださる方のために心を込めて制作し、お届けするのに十分な量をつくっていただけるよう日々励んでいます。

最近では、新築を建てられたりリフォームをされる若



佐藤 友佳理



スクリーン

いご夫婦から障子やドア、照明に和紙を用いたいとお仕事を頂く事も増えました。

和紙、漆喰、木材を使用するなど、日本の風土に合い、古来より家屋に用いられてきた素材の見直しは最近建築業界でも多くみられるのではないのでしょうか。

そういった素材がなぜ衰退しつつあるのか、どういっ

た付加価値やデザインを持たせ変化を加えれば、現代の人々の生活様式に心地よさを提供できるのか。

時の流れとともに変化する人々のニーズを観察し、日々学ばせて頂いております。

機会がありましたら、建築に携わる皆様諸先輩方のご意見も伺えればと思います。宜しくお願い致します。



臼井邸



ワイナリー照明



市松建具



和紙モヒ &_12441

私のまちづくり①

菊池清治邸について

寄稿

2

ヘリティジ・マネージャー 岡崎 直司

八幡浜市の中心部、浜之町の通りに面して、ある商家建築が平入りの佇まいを見せている。間口七間半、奥行きはその倍もあるが、長らく空き家で普段は閉め切った状態であったため、内部を知る人は少ない。しかし、日本の民家に多少詳しい方なら、持ち送りが6つ並び、蔀戸（しとみど）や出格子、二階の漆喰（しっくい）塗り込め壁、機能と装飾を兼ねた一列の海鼠壁（なまこかべ）など、その伝統建築の質実な在りように、きっと目が届くことだろう。そしてその傷（いた）み具合にも。

この建物と関わり始めて約3年になる。97年に「まちのデザイン・歩キ目デスは見た!」を出版した際、写真で紹介させて頂いた建物でもあるが、保存するための具体的なまちづくり活動としては、まだまだの年数である。私はこの八幡浜で生を受け、数々の転居もしたが、中学・高校と多感な時期を過ごしたこともあって、この町に最も故郷意識が強い。この老朽化し、言わば見方一つで解体寸前ともいえる菊池邸のことが気になってしょうがない。

かつてこの家のオーナーだった7代目の菊池清治氏は、戦後初の八幡浜市長をされた名誉市民であり、戦前期には松山高校の校長、あるいは八幡浜町長も経験された。糸へん景気で沸く港町“伊予の大阪”と謳われた、この町を代表するお旦那氏の商家建築である。しかも、近年脚光を浴びている日土小を設計した建築家松村正恒氏を採用した雇い主でもあった。氏は後年、菊池市長の理解と擁護に対して感謝の意を記している。当時まだ無名だった一建築技術者の全国レベルで卓越した才能を、東大物理出身の学者市長は洞察していたのかも知れない。戦後間もなくの市役所内にあって、革新的モダニズム建築の要諦など、そうそう理解出来る人物が周囲に居たとは思えないことを考えれば、菊池市長の存在は孤高の建築家松村にとって、どれほど心の支えになっていたかを想う。

ともかく、我が町八幡浜は、これまで幾多の名建築を為すすべもなく失う路線を歩んできた。日土小以上とも言われた江戸岡小や、港の一角に屹然と建っていた青木石油本社ビル（現太陽石油）、あるいは旧五十二銀行八幡浜支店、酒六紡績工場群などなど、枚挙に暇（いとま）なしである。この20年ほどの間に、時代の趨勢に任せきりで傍観してきた我々大人の責任は実に大きいのだ。

そんなこともあって、平成13年には市内ガイド「八幡濱みてみん会」を発足させることが出来、菊池勝徳会

長を始めとして地道に顕彰活動をしてきたが、今はその発展形式として「菊池清治邸を活かす会」が誕生、保存活用の運動を展開している。

一昨年の春には、まず菊池邸を市民の方々によく知って頂こうと「日本最古の自転車展」なるものを建物初公開を兼ねて開催した。それは、先立つ数年前にこの家の蔵から発見された三輪自転車で、今は堺市（大阪）にあるシマノ自転車博物館に寄贈され、鎮座ましましているが、専門家からの見立てでは現時点で日本最古の可能性があるという折り紙がついたシロモノ。私は思った、「ヨシ、これで八幡浜に陸海空の物語が揃った」と。

つまり、“空の物語”は言わずと知れた、ライト兄弟よりも12年早く飛行原理に到達した二宮忠八のクラス型飛行機である。“海の物語”は、宇和島藩の指示で当地出身の前原巧山による蒸気船建造。若干薩摩藩に先を越されたが、独力で宇和島湾にその蒸気船が浮かんだ史実は、幕末期の当地の先進性を発揮した。加えて今回の“自転車”という話の「陸海空、八幡浜“夢”物語」というノリである。

そのDNAのなせる業か、この菊池家では明治10年（8年説もある）には既に八幡丸（やわたまる）という蒸気船を進水させていて、上方航路を開き、やがてそれは大阪商船につながり、現在の関西汽船ともなつてゆく。

さて、そうした浜の歴史をひも解く場合に、まるで宝箱のように様々なエピソードに彩られたこの建物を、今度こそは未来に継承すべく保存してゆかねばならない。さりとて、目下は老朽化スピードとの競争で、限界値に近付いている。そうした危機感の背景もあって、市民周知を図るべく先頃発刊にこぎつけたのが、「提言書・街もサイクル、健康もサイクル、人も再来る——八幡濱菊池清治邸物語——」の小冊子である。三輪自転車のご縁もあって、歴史景観を守る観点から、自動車ではなく環境的にも人に優しい“自転車のまちづくり”を提唱している次第である。この5月18・19日には、冊子の市民配布を目的に、吉田初三郎画「八幡濱鳥瞰図」を目玉に、町並みレトロ写真展と合わせて建物公開を実施して、市民の方々に喜ばれた。今後も保存活用の日の目を見るまで、多くの方から賛同とご協力が得られるよう、活動に精を出していきたいと思う。

菊池清治邸の掲載写真・キャプション



菊池清治邸正面（左棟・幕末、右棟・明治初頭）



三輪自転車が見つかったドングラ（左）とホングラ



（筆者）
今年5月公開 見学時の準備メンバー



一昨年、公開時の賑わう菊池邸



シマノ自転車博物館に寄贈の三輪自転車



櫛（けやき）の持ち送り

岡崎 直司氏のプロフィール

1954年生 愛媛県八幡浜市
 八幡浜高校・明治大学文学部史学地理学科 卒業
 ライフ・ワーク 町並みウォッチング
 著 書 「まちのデザイン 歩き目デスは見た！」
 執筆活動 2012年4月～2013年3月
 「愛媛新聞」四季録（水曜日）に連載
 （県近代化遺産主任調査員）
 愛媛温故紀行（平成15年3月発行）
 財えひめ地域政策研究センターの
 調査員として携わる

新しいホームページのご紹介

本会ホームページの全面改訂作業は、4月号の「情報・広報委員会「座談会」報告」に井関委員長が書かれていた“改訂の骨格”に基づき、厳しい時間的制約の中ではありますが、活発に行われました。

具体的にはメーリングリストを作ってそこに委員各自が意見を寄せ合い、詳細の補完は相互に電話連絡、デザイン面など特に意見の分かれるところは多数決という形で進行、概略がほぼ完成したところで、5月25日には事務局、情報委員会、女性委員会、ホームページ作成会社などが一同に会し、CMSの説明、質疑応答、細かい意見や要望の披瀝が行われました。

それでは以下、改訂されたホームページの概略について記します。

■一般、非会員に開かれたHP

トップページには、「一般の皆様へ」、「建築士・建築技術者の皆様へ」、「建築士を目指す方へ」の3つの入口があり、公益法人化に伴う一般市民への情報提供、非会員の方にも開かれたホームページとなっております。

会員の方は、「建築士・建築技術者の皆様へ」から入って頂くと、講習会の案内、事務局からのお知らせ、その他にアクセス出来ます。

建築士会の紹介、公益法人情報公開、法人設立経緯等は、「一般の方へ」からアクセスします。

「建築士を目指す方へ」からは、試験情報、受験申込み方法、講習の情報などにアクセスできます。

■メールマガジン

トップページの右側にある「メールマガジン」をクリックしてメールアドレスを入力すれば、事務局からのお知らせや各種講習会の案内が、お手元に直接届くようになります。

情報・広報委員会副委員長 小野田 公典

うっかり「いしづち」を読み飛ばしていたり、ホームページに暫くアクセスしていなかったりといった場合でも、必要な情報がお手元に届く便利な機能ですので、この機会に是非ご利用ください。

■会報誌「いしづち」

「いしづち」のPDF版がここで読めるようになります。（読める範囲についてはこの原稿を書いている時点では未だ決定しておりません。）

■書籍販売

業務に必要な書籍がここで直接購入出来るようになります。

■ギャラリー

現在、このメニューから下のコンテンツは未定となっておりますが、旧ホームページにも掲載されていた「写真倶楽部」の作品や、将来的には会員の皆様在设计・施工した作品の写真展、その他会員同士のコミュニティの場として機能するよう、ページ設計に或る程度の柔軟性を持たせています。

また会員の建築作品のギャラリーも新設しました。

公益社団法人愛媛県建築士会ホームページのアドレスは <http://www.ehime-shikai.com/> です。

今回改訂されたホームページを今後益々御利用頂き、ご意見、ご要望、ご叱咤、その他どのようなものでも結構ですから、是非皆さんの声を、トップページ右上と下部ステータスバーにあります「お問い合わせ」からお送り頂ければと思います。

よろしくお願いいたします。

けんちくの輪

建築士会と私

けんちくの輪

6

四国中央支部 石村 卓也

今治支部の青陽さんからバトンではなくブーメランが飛んできたので、キャッチしました四国中央支部の石村です。

私が建築士会に入ったのは5年前で、正直どんな活動をしているのかも分からず、建築士会からの情報を得る為に入会しました。

入会すると前支部青年委員長の宇田さんから「来年度の支部青年委員長になってくれないか」と何度か頼まれましたが、断り続けました。

結果、宇田さんからの猛烈なアプローチの末、年末の懇親会の席で「来年度の四国中央支部青年委員長に推薦されました石村です。」と酒も飲まず言っていました。私はその懇親会の後、早々と帰りましたが、宇田さんが夜の街に消えて行った事は忘れません。

その年に同じ境遇で支部青年委員長になった青陽さんと出会い、そこから多くの仲間ができました。今となっては宇田さんに感謝しています。

入会して5年が経ちましたが、中四国ブロック大会、ソフトバレーボール大会、とびだせ建築士等の活動を通して、学生から経験豊富な先輩方、県内外関係なく交流・情報交換ができ、若い世代とのつながりや新たな仲間や団体とのつながりを持つことができました。

昨年、中学校の教員をしている友達から、職場体験学習の講師をやってほしいと頼まれたので、中学1年生を対象に講演を行いました。後日アンケートを拝見すると、建築に興味を持ってくれたり、私が話した言葉を自分なりに受け止めてくれ、これからの人生に少しでも役に立てた事を実感し、嬉しく思いました。これも建築士会に入会し、自身を成長させてくれたからだと思います。

これからも建築士会の仲間と共に、様々な活動を通して自身の成長、士会の活性化、そして“けんちくの輪”を広げて行きたいと思います。

次回のブーメランの行き先はまだ決まっておりませんがご期待ください。



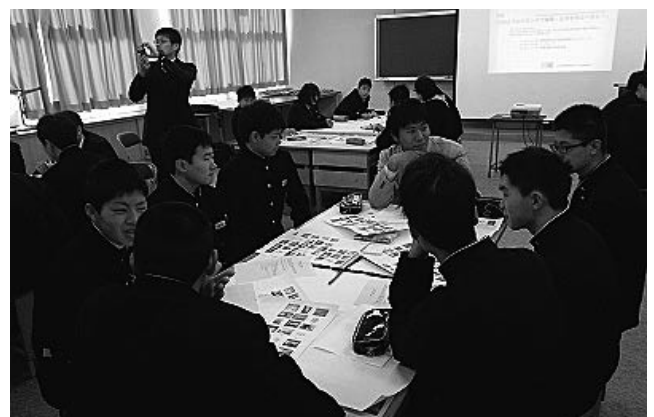
23年中四国愛媛大会



中四国ブロック愛媛大会 司会



準優勝 四国中央支部



とびだせ建築士 (東予高校)

けんちくの輪 建築技術「近代化」の功罪

今治支部 白石 耕平

前回の太田陽子さんより引き継ぎました今治支部の白石耕平です。愛媛県建築士会では文化財・まちづくり委員会に所属しております。

自分は今治市を拠点に木造住宅や社寺を手掛ける仕事をさせていただいている大工をしております。昨年11月、日本一の大鉋の使い手である山本文義氏を実行委員長に開催された「削ろう会・宇和島大会」では半年前から県内で活躍している志を同じくする大工、木工職人ら24名が休日返上で砥ぎ、削りに明け暮れ、切磋琢磨しながら、大会の準備作業をしていたのは記憶に新しいところです。特に消えてしまった工法「打割製材」の実演は大木と格闘する往時の建築文化を参加者だけでなく、来場者にも共感し、楽しんでいただいたことは嬉しいことでした。

自分は平成17年に建築士会に入会し、建築士会の活動に参加するようになったのは平成19年の長州大工が遺した社寺建築の調査に参加するようになってからでした。建築士会での活動は、愛媛県内の古民家、社寺の実測調査から、重要文化財の保存修理工事の見学など伝統木造建築に関わる活動が多いので個人的には楽しく参加させていただいております。最近では平成21年の10月～平成24年の12月まで文化財・まちづくり委員会のメンバーで愛媛県の近代化の歩みを今日に伝える建造物「近代化遺産」の実測調査、図面作成を行いました。普段は関係者以外、上陸することが出来ない四阪島での調査は貴重な体験となりました。

【建築士として大工として思う事】

現在、新築住宅の80%以上がプレカット加工に頼る時代となっています。木のクセを読み、木を活かし、構造軸組を手刻みで出来る知恵と技術を持った大工は消滅しつつあるといえると思います。プレカット加工による「画一化」、「量産化」された住宅建設は目先のコストを下げるために工業製品の家づくりを結果として推進し、優れた職人技術を衰退させ、住宅の品質低下へとつながっております。今、大工が現場で鉋がけをする光景はほとんど見ることはなく、鉋に変わって最新鋭の電動工具を駆使した作業姿を見かけるのがほとんどではないでしょうか。日本は古くから「技術大国」を自負してきました。愛媛県内にも国宝・重要文化財をはじめとする優れた歴史的建造物が存在し、そのほとんどが木造建築であり、それらは大工、瓦師、左官、石工といった各職人の長い経験と技術の分厚い蓄積によって造られ、現在まで保存されてきたといえます。

それは長い歴史の中で先人達が技術を発展させ、代々継承し、確実に次の世代に引き継がれたからこそであって、今日、受け継がれた技術を絶やすことなく次の世代に伝える活動を建築士会の方々と出来ればと思っております。

けんちくの輪を引き継ぎましたが、士会での活動よりも一大工として、思う事を綴ってしまいました。

大工の戯言と思ひ容赦下さい。



古代打割製材の実演：クサビを打ち込む



割れはじめた大木…



きれいに真っ二つに